

習志野文化ホール再建設基本構想(案)に対する パブリックコメントの結果報告【概要】

パブリックコメント実施期間：令和4年4月1日(金)～5月2日(月)
意見提出者人数：65人 意見件数：243件

1. 主な意見の抜粋 ※概ね同様の意見については、編集してまとめております。

(1) 敷地候補地 総数54人

JR津田沼駅南口支持の意見	<ul style="list-style-type: none">・「音楽のまち習志野」のシンボルであり、アクセス抜群で収益の上げやすい、現在地での建て替えが良い。・習志野の表玄関、音楽文化推進都市にふさわしい、今まで以上の津田沼南口再開発を実現していただきたい。・現在の津田沼駅南口でなければ意味がない。近隣で最大の利便性で商業施設内の立地を誇るべき。JR改札口を出て、そのまま車イスで入館できるロケーションは譲れない。・現ホールの規模・立地は好条件がそろっており、音楽を大切にする習志野市のコンセプトに合致する。・東京や横浜などからのアクセスが良く、お客様も演者も集まりやすい。・帰りに買い物や食事をして、気持ちよく帰ってもらう為にもJR津田沼駅南口が良い。
旧庁舎跡地支持の意見	<ul style="list-style-type: none">・費用も安く、早く着工できる点も良い。JR津田沼駅前では民間事業者主体となり、工期が不透明。維持費も高くなるのではないか。・貴重な市有地の将来の独自性を売り渡すことのないように強く要望したい。・財政面で旧庁舎跡地へ建ててほしい。跡地の有効活用を。・市の構想を自由に反映でき、他の施設との合築も可能。・市民には京成電鉄利用者が多く、利便性が高い。・JR津田沼駅南口では、多額の費用をかけても民間事業者の意向が大きく、市民のための施設にならないのではないか。旧庁舎跡地は、全市民のために活用し続けるために、ホール建設に相応しいと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none">・習志野の新しい街づくりにつなげるため「JR新習志野駅南口」を提案します。・今後どのような体制及び意見で決定していくのか。また、市民の意見をどのように反映するか。

(2) パイプオルガン 総数22人

必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールのシンボルとして残すことを希望します。 ・『市民のための文化ホール』であれば残すべきではないか。 ・パイプオルガンは必要である。 ・そのまま残すか、どうしても変更するのであればロビー等への設置を検討。 ・県内唯一でパイプオルガンのあるホール。専属奏者や定期コンサートの開催などで、音楽のすばらしさを知ってもらおうツールである。 ・クラウドファンディングを行っても残していただきたい。
不要	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回の利用であれば、維持管理を考慮し廃棄も考えるべき。 ・費用以外にも、海外から技術者を招聘したり、保管方法等にも技術的な問題があるのであれば、そこまでしてパイプオルガンを設置しなければならない理由が理解できない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールを利用する機会がほぼない立場だと、パイプオルガンの存在すら忘れていた。

(3) 座席数・規模 総数12人

拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・2,000 から 2,500 人収容で、ケチらず全国でも評判になるような習志野文化ホールにしてください。
構想の通り	<ul style="list-style-type: none"> ・座席は 1,400~1,600 席。 ・従来並みかそれ以上。(大きすぎる必要はない) ・利用団体によるだろうが、1,500 席程度が良い。 ・少子化に伴い、1,200 席程度で良いのではないか。 ・学校や市内音楽団体の利用、商業利用を総合的に考えると 1,300~1,500 席程度が良い。
縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・身の丈に合った 800 席規模が良い。 ・自主事業の面で、大ホールでの集客は難しく、持て余しているところが少なくなく、半分程度に縮小した 600~800 席が妥当。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・前後の間隔が狭い。 ・収容力を多少落としても、利便性、バリアフリー等を優先すべき。 ・大規模なホールが本当に必要か。大規模ありきではない。

(4) ホールの仕様 総数24人

<p>形式 ホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通りコンサートのための音響に特化したホールで、基本構想のワンスロープ形式の座席の案が良い。 ・多目的ホールとしての機能、規模を維持しながら、市内各団体が利用しやすい工夫を。 ・音楽のまち、文教都市構想からすると、しっかりした多目的ホールが必要。 ・近視眼的な希望等に基づいてコンセプトを決めるのではなく、100年後も良いホールだと評価してもらえるホールとするべきであり、そのためには多目的ホールは、まず第一に欠格となる。他分野の人から異論が出ることは覚悟して、一番必要な目的に特化した専用ホールを造っていただきたい。 ・コンサート専用ホールとすべき。
<p>フ リ ー ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付き添い者用のスペースも作れる可動式シート。電子機器用のコンセント。 ・客専用のエレベーターの設置や、車いすでの客席までの動線の確保が必要。 ・多目的トイレの設置。
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隈健吾氏へお願いし、能楽堂あるいは能もできるステージを作っていただきたい。 ・音響設計については、世界的に評価の高い専門会社を利用してほしい。 ・設計段階から、芸術分野の専門家を参加させてほしい。 ・生音の良さに重点を置き、更に高めてほしい。 ・空調の音が気になる。 ・多目的ホールを考えると緞帳は必須。 ・トイレの増設を望む。 ・座席数を観客数に合わせ変えられる、間仕切り装置があると良い。 ・壁や音響反射板は木の暖かさを活かしてほしい。 ・大リハーサル室2室や、500㎡クラスのギャラリー、有料会議室の設置を希望する。 ・大型車での搬入可能なスペースが必要。 ・出演者、関係者の駐車スペースが必要。

(5) その他

再開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールだけの収益が厳しければ40階前後のタワマンも併設し、津田沼ツインタワーとしてシンボルにすればよい。地下駐車場もあんな駅近でなかなかない。 ・緑地帯の築山部分は最大限残せるように工夫してほしい。 ・町の佇まいが見えなくなり、町の個性や営みが見えず、町の魅力を失ってしまうので、ターミナル駅で最近よく目にする広大なペデストリアンデッキだけはやめてほしい。 ・駅南北の再開発を効果的に誘導し、駅に近い部分へ商業施設の集約をはかることが優先。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「あしたのハーモニーが響くまち」のとおり、さすが習志野市のホールだと言われるホールとしてほしい。 ・市民の憩いの場として、ロビーでフリーコンサートなどが開催されると良い。 ・新ホールができるまでの空白期間をどうするか工夫してほしい。 ・代替ホールを完成させてから、既存ホールを閉鎖させるのが筋である。 ・有名ミュージシャンのツアー初日に選ばれるホールになってほしい。 ・運営は非常に大切な仕事である。 ・財政健全化にこだわる議論はあまりしない方が、まちの大いなる経済投資、発展につながる。 ・ホールを再建しないという意見は出なかったのか。 ・閉館には断固反対。 ・現段階での再建設は時期尚早であり、改修・修繕で対応すべき。 ・普段お金がないと言っているが、文化ホールは聖域か。 ・ライフサイクルコストの試算をしましたか。